子ども海外派遣事業

岡山市子ども海外派遣は、岡山市内の中学生を海外に派遣し、ホームステイなどを行い、海外の家族や子どもたちとのふれあいを通して、子どもたちの国際的視野を広めるとともに、多様な文化への理解と国際交流を図る事業です。今回は４年ぶりの開催ということもあり、過去最多の申込数でした。

プロヴディフ市（ブルガリア）、洛陽市（中国）、富川市（韓国）、新竹市（台湾）、グアム準州（米国）の国際友好交流都市・地域へ40名の中学生を派遣しました。

派遣前の２回の事前研修では、現地で話す言語や文化を学ぶだけでなく、日本や岡山市の魅力を伝える出し物の練習をしました。派遣先では、一般家庭でのホームステイを体験したほか、文化体験や市内視察をはじめとする各種プログラムを通じ、異文化への理解を深め、将来につながる交流の輪を作ることができました。

また、サンノゼ市（米国）、ウマティラインディアン居留区部族連合（米国）の中高生６人と共にオンライン交流を行いました。

語学研修

うらじゃおどりの練習

プロヴディフ市

7月31日～8月9日
派遣人数：8名

書道での交流

民族衣装を着て民族舞踊体験

プロヴディフの旧市街地散策

プロヴディフ市長表敬

桃太郎像の前で

洛陽市

7月25日～8月2日
派遣人数：8名

漢服を着て散策

中国の琴と笙を体験

餃子作り体験

龍門石窟にて

みんなとの別れ

富 川 市

7月26日～8月2日
派遣人数：8名

青瓦台見学

富川市役所にて歓迎式

出し物披露

テコンドー体験

韓服体験

17キロ海岸風景区散策

慈天宮見学

新 竹 市

8月2月～8月9日
派遣人数：8名

台積創新館ミュージアムVR体験

擂茶づくり体験

歓迎夕食会

グアム準州

7月30日～8月6日
派遣人数：8名

sayonara パーティー

ナイトマーケット

島内観光

グアム知事ゲレロ氏に表敬訪問

ホストファミリーと

参加生徒の作文

コミュニケーションの多様化

グアム準州派遣　**廣　瀬　友　春**

今回の派遣を通して、「コミュニケーションの手段はたくさんある」ということが分かった。

空港で初めてホストファミリーと会った時、私は「人生初めての海外」といった期待やホストファミリートとの初対面であることへの緊張などから、うまく話をすることができなかった。しかし、ホストファミリーは空港からの帰りの車内で私が緊張していることに気づき、初めのうちは翻訳アプリを活用しながら話しかけてくれた。そして三日目になると私の緊張もほとんどなくなり、分からない言葉はジェスチャーやスペルを聞くなどの方法を通して、基本的には自分の力で会話をすることができた。このように、翻訳アプリ・ジェスチャーを活用した会話も一つの会話方法だと思う。これらを活用することは決して悪いことではなく、その会話から何を得るかがカギだと思った。

四日目にグアム知事を表敬訪問した際、知事は私たち派遣生に一人ずつ、「今日までの派遣生活を通しての学びや気付きは何か」と質問された。そこで私は「コミュニケーションの手段はたくさんある」ということを学んだと派遣の付き添いの先生に通訳をしていただきながらではあったが、発表をさせていただいた。全員の発表が終わった後、知事は私の発表に対して「ジェスチャーやアプリなどを駆使して意思疎通をしようとする姿勢は国際的なつながりを作るうえでとても大切です。」と話してくださった。私は英語を学習途中であり、まだ理想のような英会話をすることは難しい。もしかすると、間違っているとは思わずに少し失礼なことを言ってしまうかもしれない。しかし、「伝えよう」「伝えたい」という姿勢があるだけでも相手も理解しようと努力をしてくれるだろうし、単語を並べてあるだけの文や、指差しなどであっても言いたいことを伝えることはできると思った。そのような「積極的な姿勢」を持つことで、国際的な交流をする際にも楽しく意思疎通が行えて、文化を伝えたり体験したりといった活動がより自由になると思った。また、そのような交流の時には自分の地域の言葉を教えることも大切だ。私はホストファミリーからは英語だけでなく現地の言語であるチャモロ語も学び、私はホストファミリーに日本語を伝えることができた。また、その教えあう過程でも文化や生活の違いを見つけることができた。

私は今後の生活で、他言語話者と話すときはもちろん、聴覚や視覚などに障がいのある方にも、ジェスチャーや筆談といった口での会話以外の方法も取り入れていきたい。そのような方法を取り入れることで、よりコミュニケーションが楽しくて活発なものになり、人の輪が広がると思う。

プロヴディフで見つけた、なりたい自分

プロヴディフ市派遣　**安　田　和　華**

私は将来、国際的な仕事をしたいと思っています。今回の岡山市こども海外派遣では、そのための貴重な経験を数多く得ることができました。そして、なりたい自分、またそのためできることを、見つけることができました。

まず、日本についてのことをきちんと説明できるようになりたいです。私のホームステイを受け入れてくれたクリスティーナさんとの会話の中で、「日本の学校では、髪を染めたりしないの？」と尋ねられたことがありました。この質問に対して私は、「髪は染めないし、ブルガリアの学校のようにネイルをしたり、化粧をしたりもしないよ。」と答えました。すると、クリスティーナさんは驚いて「Why？（なぜ？）」と再度私に尋ねました。このとき理由など考えたこともなかったので、ただ「校則だから。」としか答えられませんでした。しかしそれを訊いても、クリスティーナさんは不思議そうでした。この会話以外にも、日本の生活の中のブルガリアと違う点を見つけると、クリスティーナさんはすぐに疑問を持っていました。私にとって、小さなことにも疑問を持ち質問をする、クリスティーナさんの姿勢は、とても新鮮でした。一方の私は、何事も当然と受け止めて疑問を持つのをやめていると気づきました。そして、「疑問」とは、思考をより深めるきっかけだと思うようになりました。今までよりも知識の幅を広げ、それらを元に、「自分はどう思うのか」をまとめる力持ち、日本人として質問にきちんと答えられるようになりたいです。そのためにまずは、「疑問」を日々の生活の中に見つけていきたいと思います。

何より、相手のことを思い、行動できる人になりたいと思います。普段から、周りに気を配ることを実践してきたつもりでした。しかし、このホームステイは「今まで通りで十分だろうか。」と考えるきっかけになりました。ホームステイ期間中私は、クリスティーナさんと一緒に彼女の部屋で過ごしました。そして彼女はいつも部屋を出る時に、「この服アイロンかけてくるね。」「向こうの部屋から取ってくるものあるけど、すぐ戻ってくるからね。」と声をかけてくれました。また最後に必ず、「Don't worry.（心配しないで）」と丁寧に言ってくれました。そしてこの声かけを、最初から最後まで、ホームステイ中ずっと続けてくれました。こうして声をかけてくれる度に、「もし自分がホームステイを受け入れた時に、こんなことまで気を回してあげられるだろうか。」と考えて、クリスティーナさんの心遣いにとても感動しました。文化の違う人とのコミュニケーションは、相手への心遣いの上に成り立っており、言葉さえ通じれば良いのではない。そのことを、身をもって知ることができました。

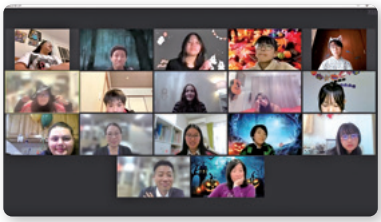
この岡山市こども海外派遣事業を通して、自分が言語の壁を超えた先で、どうなりたいのかという目標を明確に見つけることができました。現地へ行き、ホームステイをしたから経験できたことが数多くあります。これらの経験、そしてお世話になった数多くの方々への感謝を忘れず、自分の学びをこれからの生活に生かしていこうと思います。

オンライン交流

10月29日
サンノゼ市
ウマティラインディアン居留区部族連合

岡山市：6名、サンノゼ市：3名、ウマティラ：3名

岡山市から学校生活の紹介


全員での記念写真